うなばら

発行：五十嵐小学校
新潟市西区寺尾西4-23-1（〒950-2064）
Tel.025-269-3117㈹　Fax.025-269-3118
E-mail : e710ikarashi@city-niigata.ed.jp
URL：http://www.ikarashi-e.city-niigata.ed.jp/

「自分にはよいところがありますか？」

校　長　　田辺　和明

「自分にはよいところがありますか？」と聞かれたら、皆さんはどう答えますか。すぐに「あります」と言える方もいれば、「うーん…」と少し考えてしまう方もいるかもしれません。私も、自信をもって答えるのはなかなか難しいと感じます。日本人は昔から謙虚さを美徳としてきたため、自分のよさを素直に認めることに慎重になる傾向があります。しかし、子どもたちが自分を信じ、学習や生活に前向きに向かっていくためには、自己肯定感が欠かせません。

国際的な調査では、日本の子どもたちは学力面で高い成果を示す一方で、自分自身を肯定的に捉える割合が諸外国と比べて低いことが指摘されています。本校のアンケートでは、「自分にはよいところがある」と答えた児童が 84%でした。多くの子どもが自分のよさを認識しているようですが、一人一人がさらに自信をもち、「自分にはよいところがある」と実感できるようになってほしいと願っています。

先日のなかよし遠足では、PTA の方々が寺尾中央公園で紙飛行機飛ばしのブースを開いてくださいました。なかよし班の仲間たちと飛距離を競う中で、中学年の児童が遠くまで紙飛行機を飛ばしました。その様子を見た 6 年生が、「すごいね！上手！」と声をかけると、その子は満面の笑みで「ぼく、野球をやっているから投げるのが得意なんだ！」と答え、何度も挑戦していました。認められたうれしさが、自分のよさへの気付きにつながった瞬間でした。また、毎朝玄関で子どもたちを迎えていると、とても気持ちのよいあいさつをする 1 年生がいます。ある日、「とてもいいあいさつだね」と声をかけました。するとその子は、それから毎日のように私の前で立ち止まり、お辞儀をして大きな声で「おはようございます」とあいさつをして、にっこり笑って教室へ向かうようになりました。自分のよさを認めてもらった経験が、その子の自信につながったのだと思います。

後期の始業式では、子どもたちに自分のよさを見つけるための三つのコツを話しました。一つ目は、「できたことを見つけること」。二つ目は、「自分で自分をほめること」。そして三つ目は、「友達のよいところを見つけること」です。友達のよさに気付ける人は、自分のよさにも気付くことができます。この三つを続けていくことで、「自分にはできることがある」「自分にもよいところがある」という気持ちが育っていきます。

私たち教職員も、「子どもの話を最後まで聞くこと」「できたことを見つけて認めること」「失敗しても『次があるよ』と励ますこと」を大切にしています。子どもたちがさらに自信をもち、自分の可能性を信じられるようになるためには、ご家庭での温かい関わりも大切です。ぜひ、お子さんの話に耳を傾け、頑張ったことや成長したことを認め、ほめてあげてください。

学校と家庭が同じ方向を向き、子どもたちのよさを認め、励まし続けることで、子どもたちは自分の力を信じ、未来へ向かって力強く歩んでいくことができます。後期も、一人一人のよさが輝く幸せあふれる学校づくりを進めてまいります。